

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25284171

研究課題名(和文) グローバル化するアフリカ農村と現金をめぐる人類学的研究

研究課題名(英文) "Socialization of Money" and livelihood activities among peasant farmers under a globalizing rural Africa

研究代表者

杉山 祐子 (SUGIYAMA, Yuko)

弘前大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：30196779

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではアフリカ農民の生計における現金に焦点を当て、現金が社会的な文脈に埋め込まれる動きを「現金の社会化」とよぶ。農民の生計活動と現金の関係を具体的に検討し、国家の経済から距離をとろうとする生活防衛的な側面と新しい手段を開発するイノベティブな側面の両方に注目して、生産資源をめぐる社会関係の再編過程を明らかにした。その作業を通して「現金の社会化」に関わる分析モデルを構築することを目的とした。その結果、1)現金・モノ・労働力を回して安定させ選択肢を増やす生計戦略、2)社会関係をつくる契機としての雇用労働、3)生産資源の利用と確保をめぐるジェンダー化された共的関係などが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the sequence of cash getting- spending activities of African peasant farmers' livelihood. Under rapid globalization, money has become indispensable for their daily life. Various ways of generating cash have been invented throughout decades of the farmers' trials and efforts. New types of resources are emerging and its accessibility is highly gendered, which can change the image of one's well-being. But at the same time, people are embedding cash into their social context (Socialization of Money), while maintaining the standard of food security. Money gave options to their livelihood strategies. Cash getting activities such as employment labor and farm products transactions, provided an opportunity for the farmers to have close social ties with non-relatives, so that they then could depend on each other in case they needed help. This research also provides an analytical model to understand such attitudes of peasant farmers' livelihood activities.

研究分野：文化人類学

キーワード：現金の社会化 アフリカ農村 現金づくり 現金づかい 日本の地方農村 ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

グローバル化と市場経済化の急速な進展は周縁地域をさらに周縁化し、地域間格差や環境と生存基盤の破壊、コミュニティの弱体化などの問題が指摘されている。一方、人類学では地域の人びとによる貨幣への主体的な働きかけや「飼い馴らし」に注目した研究も蓄積されてきた。

人びとの生計を詳細に検討すると、現金をめぐる活動には、市場や国家経済の影響を最小限にとどめる生活防衛的な側面があると同時に、現金を介したモノや人の交流を通じて新たなネットワークを作り出し、新しい技術や作物の導入と普及を促すイノベティブな側面が観察できる。

人びとが現金をどのように生計に組み込んできたかに注目することは、地域や社会の大きな変動の様相とともに、その特性をつかみとる重要な切り口になる。

生産資源へのアクセスとそれをめぐる社会関係の再編という点からも、現金への注目は重要である。とくに1990年代以降、女性のエンパワーメントを目的としたさまざまな取組みが続けられてきた結果、マイクロファイナンスを利用した女性たちの起業、フェアトレードや国際NGOの活動と結びついた地場産品の開発、他地域との人的交流などを通して、これまで顧みられなかった新たな生産資源が現金収入源として注目されるようになった。

その私有化と共同化をめぐる駆け引きのなかで、ジェンダーと世代を重要な要素とする社会関係の再編が、これまでとは異なる様相を含みつつ進んでいる。そこでは地縁や血縁、ジェンダーによる従来型のネットワークを応用しながら、外部の開発エージェントとのネットワークを接合させて国外にも及ぶ広がりを作り出し、より安定した生計をめざす動きが活発化している。

2. 研究の目的

上記のような現状において特徴的なのは、現金での売買が介在することによって生じた「よそ者」との出会いが、新たなネットワークの結節点となると同時に、地域内の新しい集団化の契機にもなっていることである。また、個人の利益を目的とした現金獲得活動が、しばしば他者への目配りを前提とした他の活動と結びついて、結果的に共同化への強い指向性を示すことも明らかになっている。

このような現象は、アフリカ・モラル・エコノミー論とも通底するが、アフリカ農村にかぎらず遍在しており、日本の地方における「農村再生」のプロセスにも共通してみられる。これは、グローバル化が日常生活の地続きにある現状を読み解くための有効な手がかりになると

いえる。本研究では、こうした動きを「現金の社会化」とよぶ。そして、①アフリカ農村の生計における現金をめぐる事例を実証的に検討し、②ジェンダー視点を取り込みながら、生産資源をめぐる社会関係の再編過程を明らかにすること、それらを通して③「現金の社会化」に関わる分析モデルを構築することを目的とした。

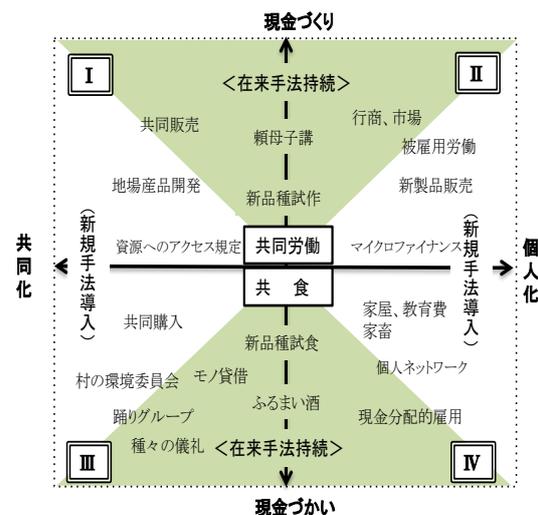
3. 研究の方法

フィールドワークをふまえた実証的研究スタイルとジェンダー視点の農村研究に関心をよせる点が共通する5名の研究者(研究代表者、2名の研究分担者、2名の研究協力者)がチームを構成する。専門分野の違いを生かし、多角的な視点から共通の問題意識を掘り下げるねらいをもって組織した。

調査は、①タンザニアのドドマ州に住むゴゴの農村を対象とした調査研究を共通の軸にすえながら、②同国リンディ州やチャド共和国の農村ほか、青森県、岩手県、山梨県、島根県、滋賀県、高知県など日本の農村での個別的な調査を実施した。③これらの調査で集積した事例を研究会で相互に検討し、あわせて分析枠組みの有効性を検証した。

異なるフィールドでの事例のすりあわせと、それを通じた効果的な分析モデルを作るため、本研究では、現金に関わる活動の機能を「現金づくり(現金獲得の方途とその開拓)」と「現金づかい(現金のつかいかた)」に分け、それを個人化と共同化という2つの方向性の中で検討する枠組みを用意した。

また、これらの中心にアフリカ農村コミュニティの核ともなる「共同労働」と「共食」を配置した。さらに当該の事例が在来



の手法の持続的な利用か、新たな手法を導入したものかも考慮した。

現金をめぐるさまざまな活動は、上図のように、個人化と共同化の軸および、現金づ

くりと現金づかいの軸によって区分された4つの象限に位置づけることができる。

この枠組みを用いて、生活防衛的な側面とイノベーティブな側面の両面を含む分析モデルの提示をはかった。

4. 研究成果

フィールドワークに基づく本研究の成果はつぎのように要約できる。

1) 現金・モノ・労働力を回して安定させる生計、生計の選択肢を増やす指向性をもつ生計戦略

タンザニア、モロゴロのウルグル山塊に住む農民の生計を現金づくりと現金づかいのシークエンスで検討した結果、①農作物、加工品販売、現金を回して必要な食料と労働力を安定的に確保することが生計維持の基盤となっていること、②現金が必要になる都度ごとに、必要な金額を入手するための現金づくりの活動をおこない、必要な額だけを手に入るという、現金づかいのリズムを中心としたサイクルが形づくられていること、③日常的な収入額よりはるかに多額の現金を必要とするときにも、この方式が計画的に用いられることが明らかになった。

ドドマ農村における家計調査や観察・インタビュー調査でも同様の傾向が確認できる。農民の生計に現金は深く根づいているが、一つの現金獲得方法だけでなくの現金を手に入るというよりは、生計を維持するさまざまな手段の選択肢を増やすことを重視するという特徴がある。

2) 新しい手法を知り、社会関係をつくる契機としての現金獲得活動

農民の生計にとって、雇用労働に従事することは現金づくりの主要な手段であるが、以前から指摘してきたように、新しい作物や新しい手法を知る契機にもなっている。

さらに雇用労働に従事したことで、知り合った他地域の人と親しい友人になり、相互扶助しあう関係を発展させる事例も珍しくない。現金づくりの活動が「ほかでは知り合わない人」との個別的関係を築く契機として利用されている。

3) 新たな「共」的關係の社会的再編とジェンダー化された生産資源の確保と利用

降雨不順による飢饉・食料不足の常襲地帯であるタンザニアのドドマ農村では、現金経済の浸透によって「食物を買う」という飢饉・食料不足への対処法が加わり、生存維持にも現金が重要となった。

新たな現金獲得手段の開発が不断に進められ、個別世帯内で農作物・労働力・現金（トンチンなどを含む）を回すサイクルが形成される一方、現金づかいの側面では、持つモノから持たざる者への分与の論理を強く意識した新たな「共」的關係の社会的再編も見いだせる。

現金づくり手段の開発では、それまで資源とは見なされていなかったもの（季節湿地や水）が新しい生産資源として顕在化する。こうした新しい生産資源の利用をめぐる個人化する動きがある一方、社会的な配慮も同時にうみだされている。そこでは、在来知や在来の社会関係が応用されるため、こうした生産資源の確保と利用は、きわめてジェンダー化された側面をもち、とくに現金づかいに男性と女性の違いがきわだっている。

4) 2つの異質なサイクルの形成

農村における「富」の新たなかたちは、土地保有の世帯間格差とその固定化への懸念もはらんでいる。農村内では現金づくり・現金づかいに2つの異質なサイクルが形成されているが、分与の論理につながるサイクルにおいて、現金のモノ性の担保が重要な鍵になる。

5) 「現金の社会化」に関する分析枠組みの有効性

「現金の社会化」は生産資源の脱資源化のチャンネルとも結びついている。アフリカ農村の諸事例をとおして、対面的やりとりを契機とする、あるいは対面的社会関係を生み出す、小規模な「現金づくり」「現金づかい」の活動において、「現金の社会化」の枠組みが有効であることが示された。

これは個々の世帯の生計のみならず、文化生態的側面を含む生業システム全体の持続可能性とも密接に関わる。その点において、日本のように現金経済が深く浸透している地域にも、現金経済の急速な浸透の渦中にあるアフリカ農村地域にも共通する視座を打ち立てることができるという見通しが得られた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 25 件）

① Sugiyama, Yuko 2017 *Moral Economy and Social Stratification in Rural Africa: Are We Moving towards a New Platform?*

T. Tsuruta(ed.), *Proceedings of 7th International Workshop on African Moral Economy, Peasant Economy in Comparative and Historical Perspectives*: 58-65 (査読無)

② 坂井真紀子 2017 「アフリカ農村における現金の貸し借りの歴史(2)～植民地以前のローカル金融とその変化～」『東京外国語大学論集』95: 171-187 (査読無)

③ 阪本公美子 2017 「相互扶助は子どもの生存に寄与するかータンザニア3地域乳幼児死亡要因の比較分析」『アフリカ研究』92:1-17 (査読有)

④ 白石壮一郎・杉山祐子, 2016 「地域農業プラットフォームとしての直売所：弘前市周辺の調査から」『地域未来創生

センタージャーナル』2号, 弘前大学地域未来創生センター:5-20 (査読無)

⑤ Sakamoto, Kumiko 2016, Situation of Women and Children in North Unguja, Zanzibar: Preliminary Report from a questionnaire interview in Chaani Masingini, *Journal of the Faculty of International Studies, Utsunomiya University*, no.41:189-208. (査読有)

⑥ Sakai, Makiko, 2016, Famine and Moral Economy in Agro-Pastoralist Society : 60 years of Rainfall data analysis, J. Maghimbi, S., Sugimura, K., and Mwamfupe, D.G. (eds.) *Endogenous Development, Moral Economy and Globalization in Agro-Pastoral Communities in Central Tanzania* :101-118. (査読無)

⑦ 坂井真紀子 2016 「アフリカ農村における金銭の貸し借りの歴史—マイクロファイナンスの源流—」『東京外国語大学論集』92:213-226 (査読無)

⑧ 杉山祐子 2015 「青森県における農産物直売所と小規模アグリビジネスをめぐる研究への視角」『弘前大学大学院地域社会研究科年報』第11号:95-104 (査読無)

⑨ Sakamoto Kumiko 2015 Situation of Women and Children in Central Tanzania: Preliminary Report from a questionnaire interview in Majeleko Village, *Journal of the Faculty of International Studies, Utsunomiya University*, no.39, pp.133-150 (査読無)

⑩ Sugiyama Yuko 2014 Agrarian Innovation Process and Moral Economy: Embedding Money into the Local Sharing System, Opening Accessibility to Resources, Kazuhiko SUGIMURA(ed.), *Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy, Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: from Comparative Perspectives*, Fukui Prefectural University :72-84 (査読無)

⑪ Sakamoto, Kumiko 2014 Comparative Analysis of Women in Female-Headed Households and Male-Headed Households: The case of RZ Village in Southeast Tanzania, 『宇都宮大学国際学部研究論集』37:45-63 (査読有)

⑫ Sakai, Makiko 2014 Limits of Micro-Finance and "Bank of Affection " in Dodoma, Tanzania, K.SUGIMURA(ed.), *Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy, Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: from Comparative Perspectives*, Fukui Prefectural University:166-176 (査読無)

⑬ 山田巖子 2014 「仏教唱導と〈口承〉文化 奪衣婆をめぐる」入間田宣夫・菊地和博編『講座東北の歴史 第5巻 信仰と芸能』第5巻:132-154 (査読無)

⑭ 山本志乃 2014 定期市における売り手の技術に関する試論『国立歴史民俗博物館研究報告』181:11-38(査読有)

⑮ Sugiyama Yuko 2013, Local Innovation, Communal Resource Management and a Modern Aspect of Moral Economy, (K.Sugimura, M.Kuroda eds.), *Proceedings of 5th International Conference on Moral Economy in Agro-pastoral Communities in Central Tanzania*, Fukui Prefectural University, :72-76 (査読無)

[学会発表] (計 58件)

① 杉山祐子 「植林プロジェクトの『その後』と在来化する技術—タンザニア緑の推進協力プロジェクトの事例を中心に」日本アフリカ学会第54回学術大会, 2017年

② 坂井真紀子 「カメルーン西部州における野菜の栽培と販売-定期市を利用した野菜小売商の仕入れ形態に注目して-」日本アフリカ学会第54回学術大会, 2017年

③ 杉山祐子 「東アフリカ農牧民社会の現代的変容: 現金経済・都市化・土地問題 2 家計簿に見る現金の必要性和現金づかいの諸相」日本アフリカ学会第53回学術大会, 2016年

④ 阪本公美子 「タンザニア農村における子どもの生存・死亡をめぐる関連要因」国際開発学会, 2016年

⑤ Sugiyama, Yuko Agrarian Innovation and the Accessibility to Resources: a Case Study of Miombo Woodland of Sub-Saharan Africa, XIV World Congress of Rural Sociology, 2016年

⑥ Sakai, Makiko Critical Analysis of Tanzania's "Kilimo Kwanza(Agriculture First)" Policy, XIV World Congress of Rural Sociology, 2016年

⑦ Sugiyama Yuko, Farmers' Markets in a "Dual Economy" in Tsugaru of Aomori Prefecture, JSPS/CSJ Symposium "LONG-TERM SUSTAINABILITY THROUGH PLACE- BASED, SMALL-SCALE ECONOMIES", 2014年 (招待講演)

⑧ Sugiyama Yuko, "Wanna learn Gogo Music? Just do it" Modern Sound Practices in the Gogo Villages, Tanzania 日本音楽教育学会 2013年 (招待講演)

⑨ Sakamoto Kumiko, Endogenous Development and Moral Economy: How far have we progressed, and what issues do we have? 6th International Conference on African Moral Economy "Rural Development and Moral Economy in Africa: From Comparative Perspectives", 2013年

⑩ SAKAI Makiko Repenser le roles les des africanistes japonais suite a la 5eme Conference Internationale de Tokyo sur le developpement de l'Afrique (TICAD V) L'Asie a la rencontre de l'Afrique, Universite francophone d'Asie du Nord-est et Institut francais 2013 年 (招待講演)

[図書] (計 18 件)

- ① Sugiyama, Yuko 2017 (分担執筆) Kawai Kaori(ed.) *Institutions*, Kyoto University Press 461 頁(349-370 頁)
- ② 阪本公美子 2017 (分担執筆) 木田剛・竹内幸雄編著 『安定を模索するアフリカ』 ミネルヴァ書房 392 頁(257-276 頁)
- ③ 杉山祐子・山口恵子, 2016 『地方都市とローカリティ: 弘前・仕事・近代化』 弘前大学出版会 302 頁
- ④ 杉山祐子 2016 (分担執筆) 河合香吏編 『他者: 人類社会の進化』 京都大学学術出版会 454 頁 (251-274 頁)
- ⑤ 坂井真紀子 2015 (分担執筆) 沼野恭子編 『世界を食べよう! 東京外国語大学の世界料理』 東京外国語大学出版会 223 頁 (210-216 頁)
- ⑥ 坂井真紀子 2015 (分担執筆) 長谷部美佳・受田宏之・青山亨(編) 『多文化社会読本 多様な世界、多様な日本』 東京外国語大学出版会 258 頁 (129-141 頁)
- ⑦ 山本志乃 2015 『行商列車: カンカン部隊を追いかけて』 創元社 254 頁
- ⑧ 大林稔、西川潤、阪本公美子編著 2014 『新生アフリカの内発的発展—住民自立と支援』 昭和堂 256 頁(165-182 頁)
- ⑨ Sugiyama, Yuko 2013 (分担執筆) Kawai Kaori(ed.) *Group s(chap.10, "The Small Village of 'We, the Bemba': The reference Phase that Connects the Daily Life Practice in a Residential Group to the Chiefdom")*Kyoto University Press. 405 頁 (239-260 頁)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:

種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
杉山 祐子 (SUGIYAMA, Yuko)
弘前大学・人文社会科学部・教授
研究者番号: 30196779

(2) 研究分担者
阪本 公美子 (SAKAMOTO, Kumiko)
宇都宮大学・国際学部・准教授
研究者番号: 60333134

坂井 真紀子 (SAKAI, Makiko)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授
研究者番号: 70624112

(3) 研究協力者
山田 巖子 (YAMADA, Itsuko)
弘前大学・人文社会科学部・教授
研究者番号: 20344583

山本 志乃 (YAMAMOTO, Shino)
旅の文化研究所・主任研究員